

様式第4号（第6条関係）

令和6年10月30日

富士見市議会議長 田中 栄志 様

会派名 21・未来クラブ
代 表 尾崎 孝好

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和6年10月17日（木）～18日（金）
- 2 参加者名
尾崎孝好、斉藤隆浩、関野兼太郎、田中栄志、佐野正幸、小泉陽
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
兵庫県姫路市 アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
姫路市神屋町143-2
- 4 調査・研修概要
第86回全国都市問題会議
健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

1日目（10月17日）

<基調講演>

生命を捉えなおす—動的平衡の視点から—
福岡伸一 氏（生物学者/青山学院大学教授）

（概要）

自らを積極的に壊し続けることによって、系内に溜まるエントロピーを捨て続け、またそれを作り直すことでなんとかバランスを保つ。それが生命体の特性である。

動的平衡とは、作ることよりも、壊すことが優先され、変わらないために変わり続ける。分解と合成の絶え間ない均衡の考え方である。

このことは、まちづくりや行政にもつながるとの観点からの講演であった。

<主報告>

市民の「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり

清元秀泰 氏（兵庫県姫路市長）

（概要）

（1）市民による主体的な介護を促進

①軽度認知障害等の予防支援

「いきいき百歳体操」などの通いの場への活動支援や認知課題と運動を組み合わせた「コグニサイズ」を主体とした認知症の進行予防を支援している。

②生活習慣病の改善並びに各種疾病の早期発見及び重症化予防

子宮がん検診の受診率向上を図るため、20歳から30歳までの2歳刻みで検診費用の無償化、リスク要因解明のためのゲノム検査等も行っている。

（2）ウォーカブルなまちづくり

①公共空間の利活用、歩行者利便増進道路「ほこみち」

ウォーカブル推進計画に基づき、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」形成に向けて、憩いの場の設置や道路法改正により創設された歩行者利便増進道路を指定している。

②Himeji 大手通りイルミネーション

歩行者の滞留空間を創出するとともにまちなかの回遊性向上に取り組んでいる。

（3）ICTを活用した健康づくり

①マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化

疾病者の医療情報の早期把握、システムを活用した事前把握を行う実証も実施している。

②「ひめじポイント」を活用した健康づくりの促進

ボランティア等で獲得したポイントはキャッシュレス決済のポイントやデジタルクーポンに交換可能である。

（4）未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援

①こども未来健康支援センター「みらいえ」の開設

「相談、交流、学び合う」をコンセプトに様々なニーズに対応している。

今年度からは社会人を対象としたセミナーを実施している。

②子育て情報の発信

子育て応援アプリ「ひめっこ手帳」を活用して妊婦健診検査等の記録をデジタル化するとともに、子育て応援サイトやLINE公式アカウントを通じた情報の発信強化に取り組んでいる。

<一般報告>

生き物から学ぶ健康なまちづくり

谷口 守 氏（筑波大学システム情報系教授）

（概要）

まちづくりを通じて市民の健康を実現するという「健康まちづくり」の考え方が近年大きく着目されている。市民の生活習慣病は大きな課題となっており、都市自体が多様な生活習慣病に罹患しているかのような状況になってきている。都市も市民も同時に健康になるためには、まちづくりの在り方自体について、生き物から学ぶ姿勢が有効である。

バイオミメティクス（生物模倣）の点から見ると、例えば都市の交通ネットワークの現状は、各所での渋滞発生や交通の撤退なども進んでおり、循環器官の状況としては決して健全とは言えない。各市町が自分の行政区域の中だけを見て計画を作成している現状では、相互に関連性のないものとなり、不整合を起こしている。

都市はその人口などの規模に応じ、公共交通と歩ける範囲でコンパクトに展開するというのが、これからの健康まちづくりの基本である。歩く習慣のある健康な市民と都市全体の健全性（良い歩きを誘発する都市体質）の循環が重要である。

また、各市町がバラバラにコンパクトシティを推進するのではなく、周囲と協調しながら都市構造の改善を図っていくことが求められている。

<一般報告>

都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

井崎義治 氏（千葉県流山市長）

（概要）

平成19年に健康都市宣言を行い、流山市健康都市プログラムを策定し、事業を5つの分野に分けて健康都市施策を展開している。

急激な少子高齢化の進行やつくばエクスプレス沿線区画整理事業による開発の影響も踏まえ、SWOT分析を実施した。

それを受け、目指す都市のイメージ、定住人口増加策、交流人口増加策を盛り込んだマーケット戦略による取組を進めている。

「駅前送迎保育ステーション」の取組に加え、要配慮児童等保育園への受入拡充も進めており、「要配慮児童保育コンシェルジュ」による支援も行っている。令和7年度より予定している、私立幼稚園への受け入れ拡大等も検討中である。

また、住み続ける価値の高いまちづくりに向けて、「グリーンチェーン戦略及び認定制度」を進めている。

当初は認定取得の協議が難航する事業者もいたが、認定を受けた住宅等

は景観価値・環境価値を高めるとともに、資産価値を高めることも明らかになった。

平成19年度からは、市内全域の全ての建造物を対象とし、グリーンチェーン認定取得は流山標準となった。

<一般報告>

IT/AI の健康分野への適用例

～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

畑 豊 氏（兵庫県立大学副学長）

（概要）

健康づくりとまちづくりを考えると、市民の健康状態を知ることが必要である。

そこで、姫路市の健診データを用いて、統計解析を実施して健康状態を可視化し、その後、ファジー論理による健診データの評価を行った。

結果として、都市間、地域間の特性の違いを分析するのにも有効であると思われる。

さらに、ファジー統合検査指数を算出することで、健康状態の変化を観察することができ、個々人の検査結果の視覚化にも役立つと考えている。

また、誤嚥性肺炎による死亡者数が著しい中、誤嚥防止、嚥下機能改善のためのシステム構築は喫緊の課題である。

統計分析の結果、歌唱が嚥下機能維持、向上に効果的であることが示された。

2日目（10月18日）

<パネルディスカッション>

テーマ 健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

コーディネーター

宮本太郎 氏（中央大学法学部教授）

パネリスト

三木崇弘 氏（高岡病院児童精神科医）

・心理社会面から見た、子どもの健康

奥村圭子 氏（NPO 法人日本栄養パトネット理事長）

・食を切り口とした 1人1人の望む暮らしを支援する
栄養パトロール事業

今井 敦 氏（長野県茅野市長）

・未来型「ゆい」で紡ぐ 健康高原都市・茅野の構築

南出賢一 氏（大阪府和泉大津市長）

- ・「未来予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」のまちづくり

パネリストからの専門的な知見に基づく提起や具体的な取組に関する発表等を踏まえて、健康づくりとまちづくりに関わる課題や今後の方向性等について討議が行われた。

5 感想及びまとめ

少子高齢化時代のまちづくりを考える上で、これまでの健康づくり政策の振り返りとともに今後の課題や方策について、先進自治体の取組事例等も含め学ぶ貴重な機会となった。

本市においても、市民の生活様式等が多様化する中でニーズを的確に把握するとともに、健康状態の見える化にも努めることが求められると感じた。

また、施策の推進に当たっては、市民協働はもとより近隣市町との協調や官民連携を図りつつ、自治体の持続可能性を高める視点からの取組の必要性を感じた。

今後も健康づくりとまちづくりについて研究を重ねていきたい。

*行政視察に関する調査書、概要等の参考資料は会派にて保管